



病害虫発生予察情報予報第 8 号 (12 月の予報)

佐賀県農業技術防除センター

I. 予報の概要および各作物の特記事項

作物名	病害虫名 ^{注1)}	12 月の予想発生量 ^{注2)}		病害虫防除のてびきの記載頁 ^{注3)}	予報対象の病害虫 (抜粋)
		平年比	前年比		
タマネギ	べと病	並	並	260~263	
	ポトリチス葉枯症	並	並	264	
	1. べと病、乾腐病、腐敗病 これらの病害の発生が増えるのは春期~貯蔵中であるが、発生を抑えるためには、定植前後の防除対策が重要となる。令和 2 年 11 月 16 日付け病害虫対策資料第 9 号を参照して、薬剤防除等の対策を徹底する。				
イチゴ (本圃)	ハダニ類	多	多	211~212	 ハダニ類
	うどんこ病	やや少	並	201~203	
	灰色かび病	並	やや少	204~205	
	アブラムシ類	多	多	216~217	
	1. ハダニ類 多発生した圃場が認められる。発生初期からの防除を徹底する。天敵を利用する圃場では、ハダニ類の密度が高いままでは効果が上がりにくいので、天敵への影響が少ない薬剤を用いてハダニ類の密度を 0 頭レベルに抑えた後に、天敵 (カブリダニ類) を放飼する。 2. 灰色かび病 こまめな換気により、適正な湿度管理に努める。また、「いちごさん」では受粉後の花弁が外れにくいので、果実での被害が発生しやすい。ブローア等を用い定期的に花弁除去をする。 3. 薬剤散布におけるミツバチへの危害防止 薬剤散布を行う際はミツバチの巣箱を圃場外に持ち出し、ミツバチがハウス内に入らないようにする。(導入可能日数は防除のてびき P520~P524 参照)。				
キュウリ	べと病	並	並	180~181	 退緑黄化病
	うどんこ病	並	やや多	178~179	
	褐斑病	並	並	183~184	
	アザミウマ類	やや少	並	193	
	コナジラミ類	多	やや多	192	
1. タバココナジラミ : 退緑黄化病、ミナミキイロアザミウマ : 黄化えそ病 コナジラミ類の発生が多く、退緑黄化病が発生している圃場がある。退緑黄化病や黄化えそ病などのウイルス病を次作に持ち越さないため、キルパー等を用いて株を完全に枯死させた後に株を抜き取り、ガス抜きを十分に行ってから、次作の定植準備をする。					

作物名	病虫害名 ^{注1)}	12月の予想発生量 ^{注2)}		病虫害防除のてびきの記載頁 ^{注3)}	予報対象の病虫害 (抜粋)
		平年比	前年比		
トマト	葉かび病	やや少	並	228~229	 コナジラミ類
	灰色かび病	並	並	223~224	
	コナジラミ類	やや少	並	152~154 231~233	
	1. 葉かび病、灰色かび病 発病部位の早期除去、予防的な薬剤散布、適切な湿度管理を組み合わせで防除する。 2. タバココナジラミ：黄化葉巻病 ウイルス病の罹病株を認めた場合は、早急に除去処分するとともに、タバココナジラミに対する薬剤防除を徹底する。				
アスパラガス	1. 茎枯病、褐斑病、斑点病、アザミウマ類、ハダニ類 本年は、褐斑病の発生が多かった。これら病虫害を次作に持ち越さないため、茎葉刈取後の残さは圃場外へ持ち出し適切に処分する。また、灌水チューブに付着した泥、残さをほうき等で除去するとともに、圃場全面をバーナーで丁寧に焼却する。				
キウ	白さび病	並	並	377~378	 クロゲハナアザミウマ
	アザミウマ類	多	多	382~383	
	アブラムシ類	並	並	384~385	
	ハダニ類	やや少	少	383~384	
	ハモグリバエ類	並	並	386~387	
	チョウ目害虫	並	並	385~386 163~165	
	1. アザミウマ類 一部圃場で発生が散見されている。多発生し高密度になると防除が困難であるため、低密度時からの防除を徹底する。				

注1) 病虫害名に網掛けをしたものについては、予報の根拠とした内容を記載しています。

注2) 予想発生量については、平年および前年との比較により記載しているため、実際の発生量とは相違を生じる場合があります。例えば、例年の発生量が少ない病虫害について「平年および前年より多い」と予想した場合であっても、実際の発生量は多くない場合があります。

注3) 防除対策については「[佐賀県病虫害防除のてびき](#)」も参照してください。

II. 予報の内容・根拠等について

予報内容（来月の予想発生量）

- 平年（過去 10 年間）及び前年と比較し「少、やや少、並、やや多、多」の 5 段階で示しています。
なお、少発生が予想される病害虫等については、予報の概要のみの記載となる場合があります。

予報内容の根拠

- 農業技術防除センターが実施する県内各地での調査、防除員の調査、予察灯・トラップでの誘殺状況調査等に基づく発生現況、気象予報からみた病害虫の発生条件等を基に、関係者による発生予察会議で決定します。
○ 発生現況および気象条件が来月の病害虫の発生に及ぼす影響については、(－)：少発生、(－～±)：やや少発生、(±)：並発生、(±～＋)：やや多発生、(＋)：多発生として示しています。

防除上注意すべき事項

- 各病害虫を防除する上で特に注意すべき事項等を記載しています。なお、全般的な防除対策については「県防除のてびき」をご参照ください（1 ページの予報の概要にリンク有り）。

写真

- 1～2 ページ目：予報で対象とした病害虫を抜粋して掲載しています。
4 ページ目以降：定期調査時の各作物の生育状況を掲載しています。

12 月の気象条件

- 病害虫の発生に関与する 12 月の気象条件については、福岡管区気象台発表の 1 ヶ月予報（令和 2 年 11 月 19 日）を基に、「気温：平年より高い」、「降水量：平年よりやや少ない」と判断しています。

気象予報による要素別確率(%) 及び病害虫の発生に関与する気象条件

要素	1 ヶ月予報における 12 月の気象予報（確率予報%）			病害虫の発生に関与する気象条件（平年比）
	低い(少ない)	平年並 (佐賀市の平年値)	高い(多い)	
気温	20	30 (7.6℃)	50	高
降水量	40	40 (48 mm)	20	やや少

Ⅲ. 12月の予報

タマネギ

定期調査 20 圃場
調査日：11月17～18日



定期調査の圃場の様子

1. ベと病

[【概要に戻る】](#)

1) 予報の内容

発生量：平年並（前年並）

（12月に発病することはまれであるが、苗床及び本圃で感染するリスクがある）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

発生株率：0%（平年0%、前年0%）

平年比：並（±） 前年比：並（±）

(2) 圃場の菌密度

近年の発生は多いため、圃場の菌密度は高いとみられる。（±～+）

(3) 12月の気象条件

気温が平年より高く、降水量が平年よりやや少なく、並発生の条件（±）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項を参照。

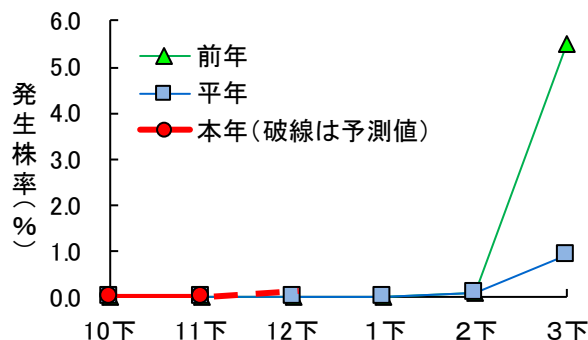


図1 タマネギベと病の発生推移

イチゴ（本圃）

定期調査 10 圃場、防除員 6 圃場
調査日：11月17～20日



定期調査圃場の様子

1. ハダニ類

[【概要に戻る】](#)

1) 予報の内容

発生量：平年より多い（前年より多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査（図1参照）

発生株率：34.8%（平年7.9%、前年23.3%）

平年比：多（+） 前年比：多（+）

(2) 防除上注意すべき事項

(1) 薬剤防除の際は、下葉や葉裏まで薬液が付着するように十分量を丁寧に散布する。

(2) その他については、特記事項を参照。

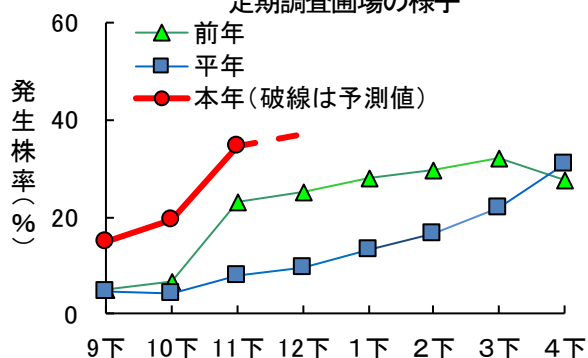


図1 ハダニ類のイチゴでの発生推移

2. うどんこ病

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少ない（前年並）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査（図1参照）

発生株率：0%（平年6.6%、前年0%）

平年比：やや少（-～±） 前年比：並（±）

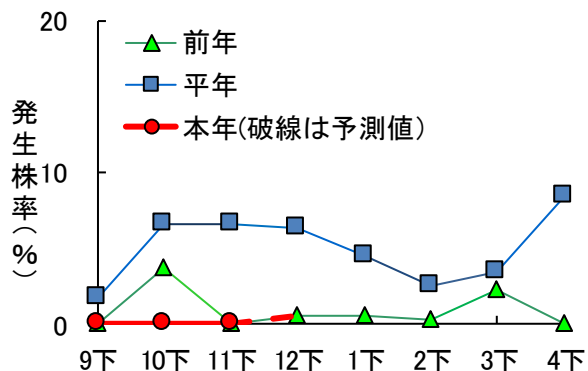


図1 イチゴうどんこ病の発生推移

(2) 12月の気象予報

気温が平年より高く、降水量がやや少なく、並発生の条件〈±〉

3) 防除上注意すべき事項

(1) 約10～14日間隔の薬剤防除を徹底する。「さがほのか」では、薬剤防除と硫黄粒剤のくん煙処理を組み合わせで防除する。

3. アブラムシ類

1) 予報の内容

発生量：平年より多い（前年より多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査（図1参照）

発生株率：7.8%（平年0.6%、前年2.0%）

平年比：多〈+〉 前年比：多〈+〉

3) 防除上注意すべき事項

(1) 薬剤防除の際は、ミツバチへ影響の小さい薬剤を選定する（県病害虫防除のてびき P520～524）。

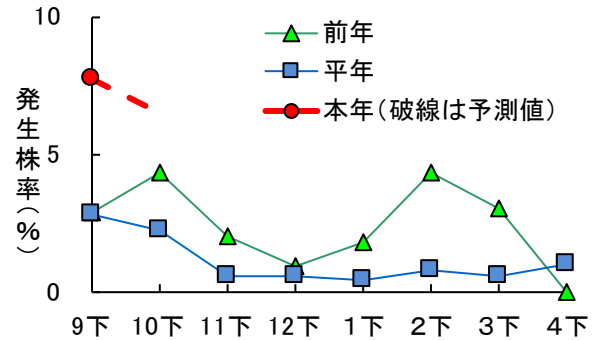


図1 アブラムシ類のイチゴでの発生推移

キュウリ

定期調査 5 圃場、防除員 4 圃場
調査日：11月16～19日

1. アザミウマ類

[【概要に戻る】](#)

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少ない（前年並）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査（図1参照）

発生株率：1.7%（平年3.9%、前年0%）

平年比：やや少〈一～±〉 前年比：並〈±〉

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項を参照。



定期調査圃場の様子

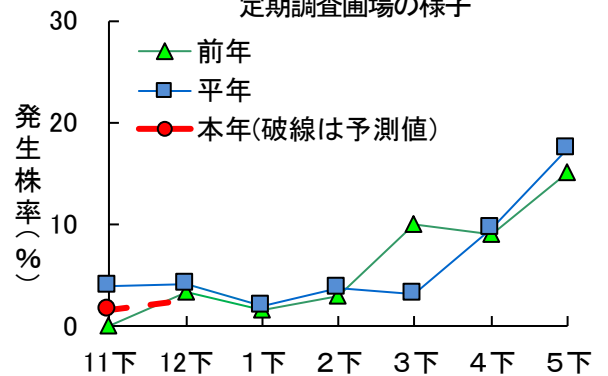


図1 アザミウマ類のキュウリでの発生推移

2. コナジラミ類

1) 予報の内容

発生量：平年より多い（前年よりやや多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査（図1参照）

発生株率：22.8%（平年6.7%、前年19.4%）

平年比：多〈+〉 前年比：やや多〈±～+〉

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項を参照。

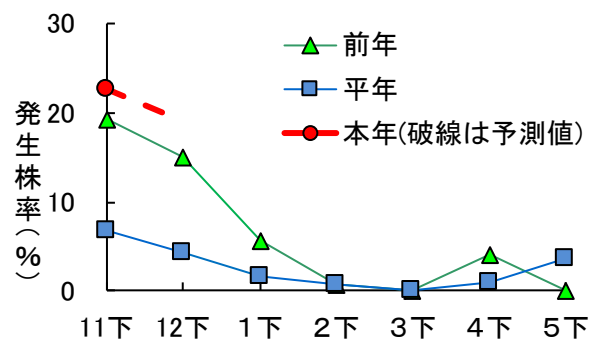


図1 コナジラミ類のキュウリでの発生推移

トマト

定期調査：6 圃場、防除員 4 圃場
調査日：11 月 18～19 日



定期調査圃場の様子

1. コナジラミ類

[【概要に戻る】](#)

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少ない（前年並）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査（図 1 参照）

発生株率：2.5%（平年 5.5%、前年 8.5%）

平年比：やや少（～±） 前年比：少（-）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項を参照。

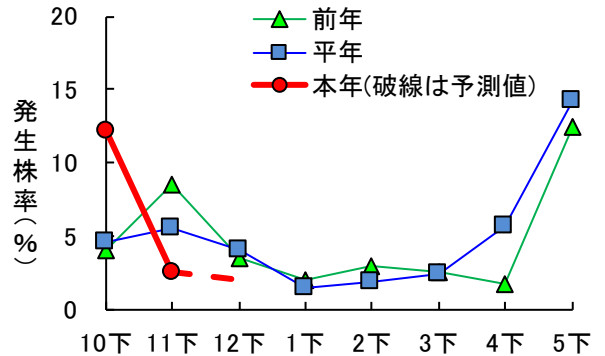


図1 コナジラミ類のトマトでの発生推移

キク

定期調査：7 圃場
調査日：11 月 17～19 日



定期調査圃場の様子

1. 白さび病

[【概要に戻る】](#)

1) 予報の内容

発生量：平年並（前年並）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査（図 1 参照）

発生株率 0%（平年 1.7%、前年 0.8%）

平年比：やや少（～±） 前年比：並（±）

(2) 12 月の気象予報

気温が平年より高く、降水量が平年よりやや少なく、並発生の条件（±）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 施設内が多湿にならないように適宜換気を図る。

(2) 発病葉は除去して適切に処分し、薬剤散布時には葉裏や下位葉にも薬液がかかるよう、十分量を丁寧に散布する。

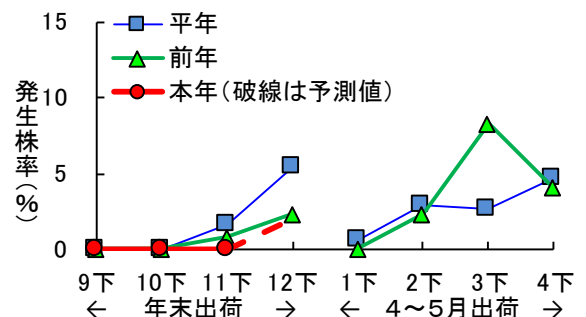


図1 キク白さび病の発生推移

2. アザミウマ類（クダヒアザミウマ、ミナキイロアザミウマ、ミカンキイロアザミウマ）

1) 予報の内容

発生量：平年より多い（前年より多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査（図 1 参照）

発生株率 6.0%（平年 3.2%、前年 3.8%）

平年比：多（+） 前年比：多（+）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 本虫は葉裏や生長点付近など薬液のかかりにくい部位に生

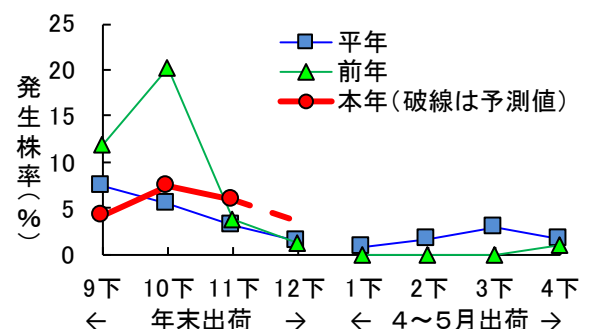


図1 アザミウマ類のキクでの発生推移

息しているので、薬剤散布時にはそれらの部位にもかかるよう、十分量を丁寧に散布する。

- (2) ミカンキイロアザミウマが媒介するキクえそ病 (TSW)・茎えそ病 (CSNV) の発病株は早急に抜き取り、圃場外へ持ち出し適切に処分する。
- (3) その他については特記事項を参照する。

3. ハダニ類

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少ない（前年より少ない）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査

発生株率 0%（平年 6.1%、前年 12.0%）

平年比：少くー 前年比：少くー

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 本虫は葉裏や下位葉など薬剤のかかりにくいところに寄生しているため、薬剤散布時にはそれらの部位にもかかるよう、十分量を丁寧に散布する。
- (2) 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤を連用しない。

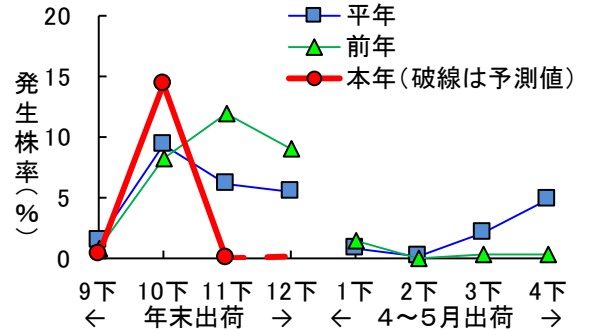


図1 ハダニ類のキクでの発生推移

連絡先：佐賀県農業技術防除センター 病害虫防除部
〒840 - 2205 佐賀市川副町南里 1088
TEL (0952) 45 - 8153 FAX (0952) 45 - 5085
Mail nougyougi.jutsu@pref.saga.lg.jp